



©原ゆたか / ポプラ社

よなかふしぎわ
世の中には不思議で分かりづら
いことがたくさんあります。自然、
かがくれざし
科学、歴史など、詳しい先生に解き
あ
明かしてもらいましょう。

知りたい好奇心

果樹地帯と水の関係 土地利用図で考えよう

山梨県は桃の生産量が日本一です。その産地で桃の花が咲きました。この季節、東京方面から中央線や中央自動車道で甲府に帰る道中、

トンネルを抜けると、ピンクに染まった盆地が突然目に飛び込んできます。そのたびに、「桃源郷」とはこういう風景をいうのだろうと、思わずにはいられません。

ピンクが集中

ところで、この桃の花は甲府盆地のどあたりに多いのか、地図で確認してみましょ

う。ここに示した地図は、山梨県の甲府盆地を中心とした土地がどのように使われているかを示したもの（土地利用図）です。

扇状地の性質

今、果樹が作られている場所は扇状地です。扇状地は、長い年月をかけて川が山から削り出した砂礫を堆積させることで作られました。扇状地は水はけが良い半面、川の水の多くが地下に潜って伏流水となってしまうため、川から水を引いて水田を作ることがとても難しかったのです。

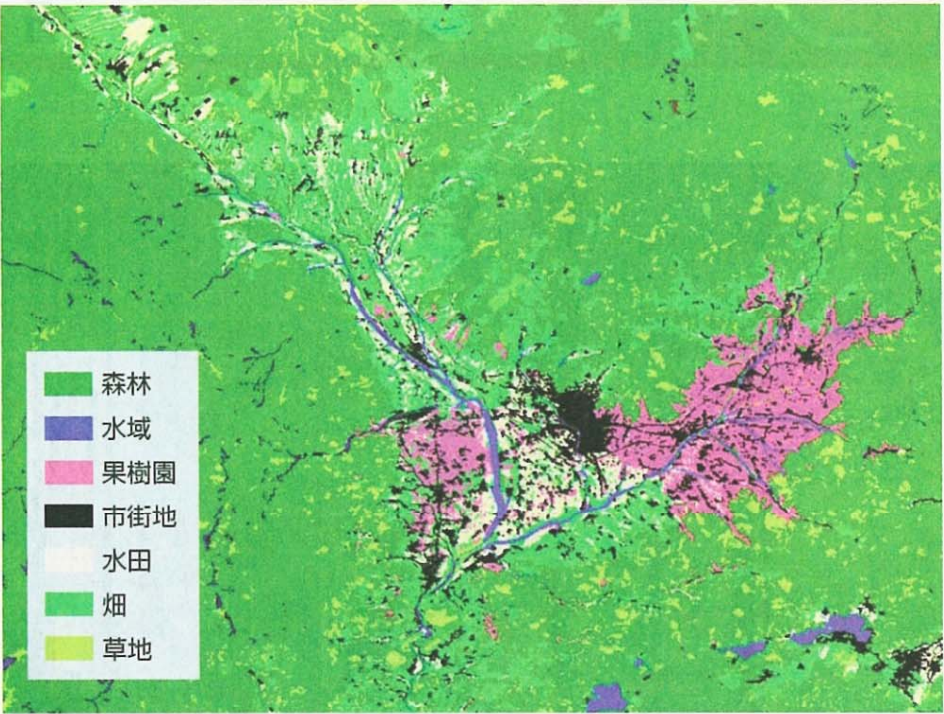
地図の真ん中を左上から右下に向かって流れているのが釜無川、右上から左下に向かって流れているのが笛吹川で、この二つは盆地のはずれで合流して富士川となります。甲府盆地の周辺は山林（森林）で、人が住んだり作物を栽培しているのは、盆地や川の周りなどの比較的なだらかなところです。

地図の中の黒い部分は市街地で、甲府市の中心部のほか、所々に見られます。果樹園はピンク色で塗られています。桃の里山梨といっても甲府盆地一面にあるというのではなく、笛吹川の中流から上流部と、南アルプス市のあたりに集中していることが確認できます。

一方で、盆地の中心部や釜無川沿いでは、果樹ではなく水田や畑が多いことがわかります。このように甲府盆地では、果樹とそれ以外の作物が作られている場所が、くつきりと分かれているのです。それが土地の性質や水の

米が作れない扇状地では、かつては養蚕が盛んで、蚕に与える桑を栽培していましたが、今は果樹地帯になり、山梨の春を代表する観光の名所になっています。

このようにして土地利用図を眺めてみると、人々の暮らしと水との関係の深さが見えてきます。と同時に、水の確保が難しかった扇状地を日本一の桃の里にした農家の苦労や努力にも思いを寄せることができます。（山梨大学総合研究部国際流域環境研究センター教授 風間ふたば）



甲府盆地の土地利用の様子。「ふるさと」の地下水（山梨地下水調査連絡会 2006年3月）より